

聖学院大学・長老会神学大学校
聖学院大学 主催
日韓神学シンポジウム2016
第6回 日韓神学者学術会議
告解と赦しと和解の神学形成
実施結果-アンケート集計結果の概要

三位一体お神を仰ぎ、聖書に示された「神の国」を希求する私たち。韓国・長老会神学大学校と聖学院大学とは、東アジア共同体形成への祈りと共同研究を重ねてまいりました。本年は「告解と赦しと和解の神学形成」との主題のもと、日韓の有力な神学者による学術シンポジウムです。

日時：2016年11月18日（金） 15：20～18：30

場所：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室

【プログラム】

総合司会

高橋義文（聖学院大学総合研究所所長）

開会挨拶

清水正之（聖学院大学学長・教授）

【セッションⅠ】

講演「告解と赦しと和解の神学試論—ボンヘッファーに学びつつ」

江藤直純（ルーテル学院大学学長・教授）

コメント

白忠鉉〔パク・チュンヒョン〕（長老会神学大学校助教授）

質疑応答

【セッションII】

講演「和解の神学」

尹哲昊〔ユン・ Cholホ〕（長老会神学大学校教授）

コメント

関根清三（聖学院大学大学院特任教授）

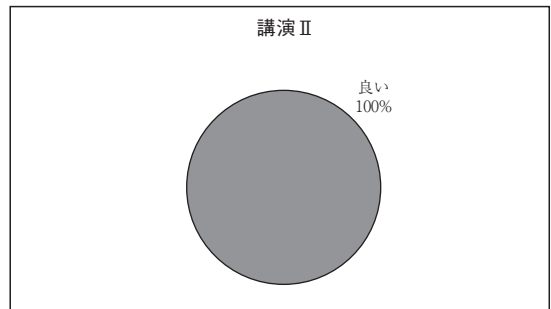
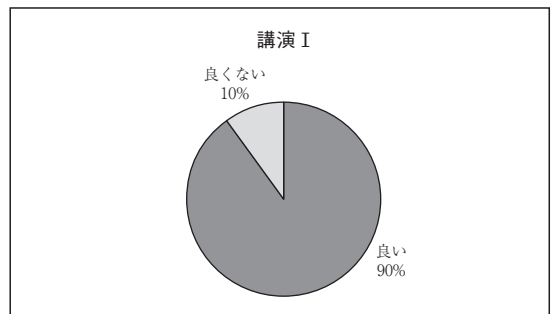
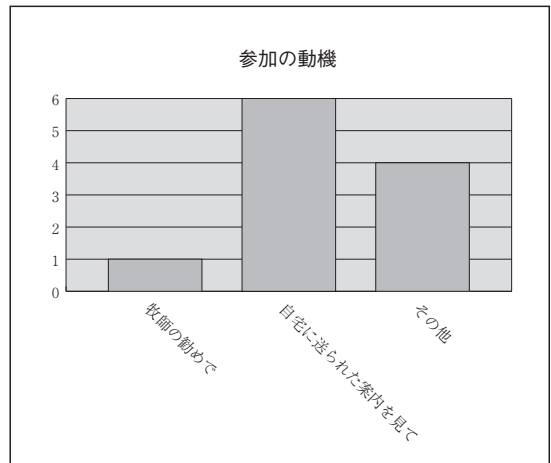
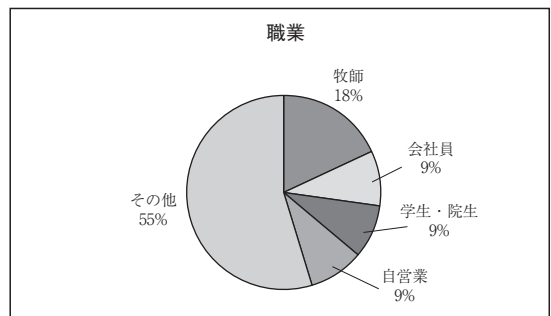
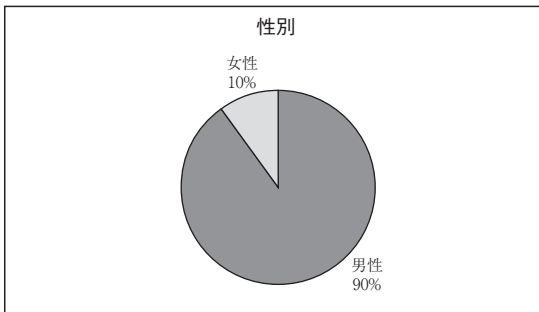
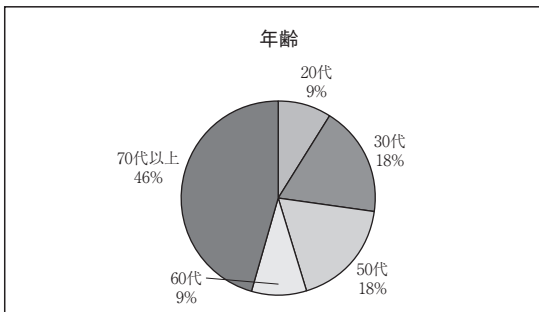
質疑応答

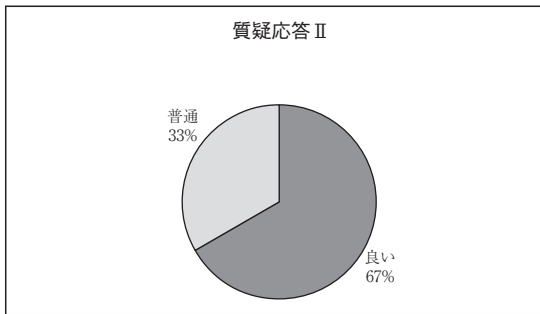
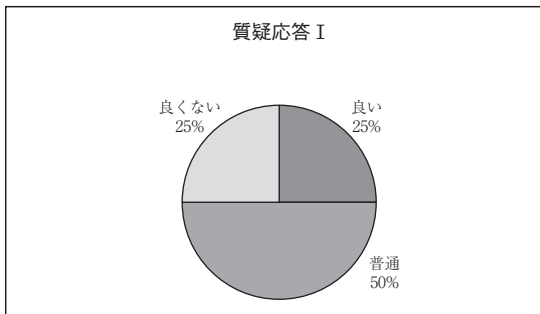
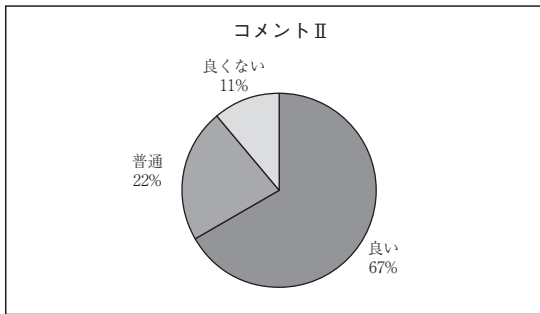
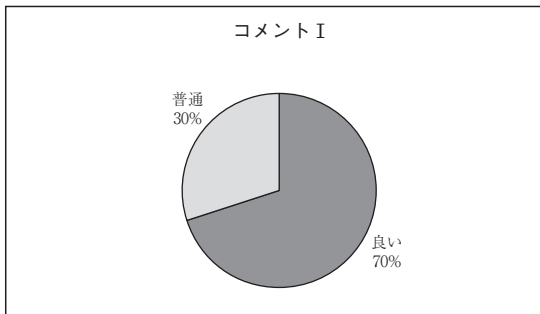
閉会挨拶

久戸光晴（学校法人聖学院理事長・院長）

【結果の概要】

- ・参加者は63名。内、アンケート回答者11名。
- ・講演について「良い」という意見が、「講演Ⅰ」90%、「講演Ⅱ」100%と高い評価だった。
- ・コメントについて、「良い」がどちらも約7割だった。
- ・自由意見として、「意義深いシンポジウム」「大変参考になった」「質疑応答時間が足りず残念」





自由意見

- ・日韓両国の神学者が一同に会して今回のようなシンポジウムを開催されるのは、とても意義深いことだったと思います。配布された当日の資料をよく読んでさらに理解を深めたいと思います。
- ・今回のシンポジウムのテーマに対してのセッション I、II ととても素晴らしかったです。難しい中にとっても感ずること教えられることが多々あり、感動しました。日本が韓国にかつてなした残虐な行為にふれられなかったこと、かえって胸が痛みました。江藤先生の共同で教科書をつくっていききたいこと、とても素晴らしいと思いました。
- ・大変参考になりました。
- ・長神大のユン・チョルホ先生をおよびしたのなら、日本を代表する組織神学者とそれぞれ講演、コメントさせ合うべきではなかったか。時間的にも足りなくなるのは、4人もいるなら当然である。シンプルな方が中身が深くなると思う。
- ・日本の平和運動、反戦運動は、個人のご利益を肯定する創価学会に吸収された。共産党もキリスト教会も失敗してしまった。和解は加害者の反省、告白、懺悔によってによって成立する。日本のキリスト教会が正しい歴史認識を持ち、教団が行動しなければ何も始まらないだろう。政治は個人の思いのみでは始まらない。リーダーシップを取る人、組織が必要だと思う。
- ・オープニングのあいさつなどはもっと簡略化することで、セッションの内容に時間を取り、質疑応答が出来るようにしてほしい。会場からの質疑がもったいないです。
- ・密度の濃い内容に対して、時間を守るために進行を工夫されたスタッフの方々に頭が下がりました。全体の時間があと1時間程度多ければ、議論の時間がありよかったです。
- ・質問の時間が取れなくて、残念です。
- ・（別添えのご意見あり）